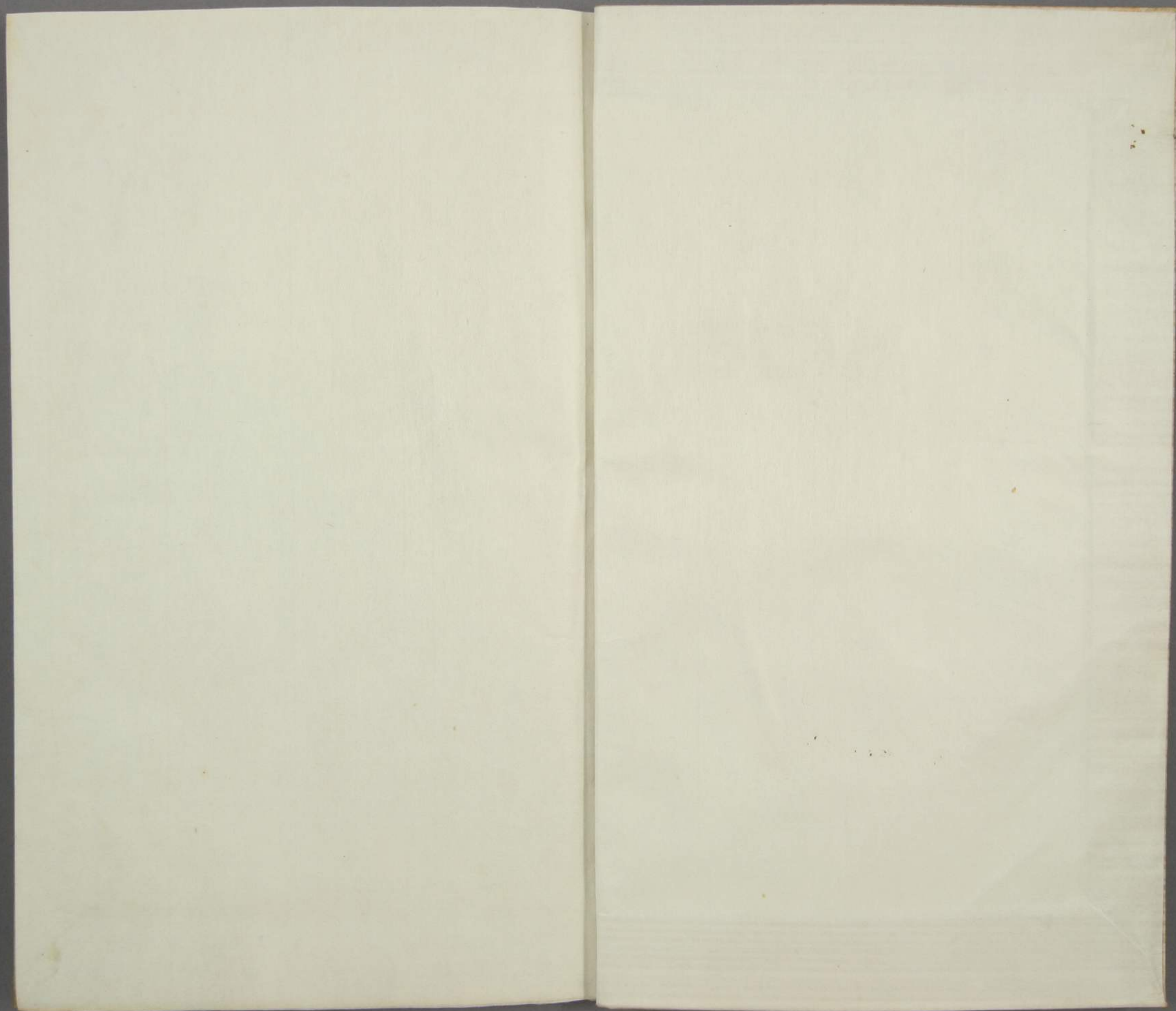
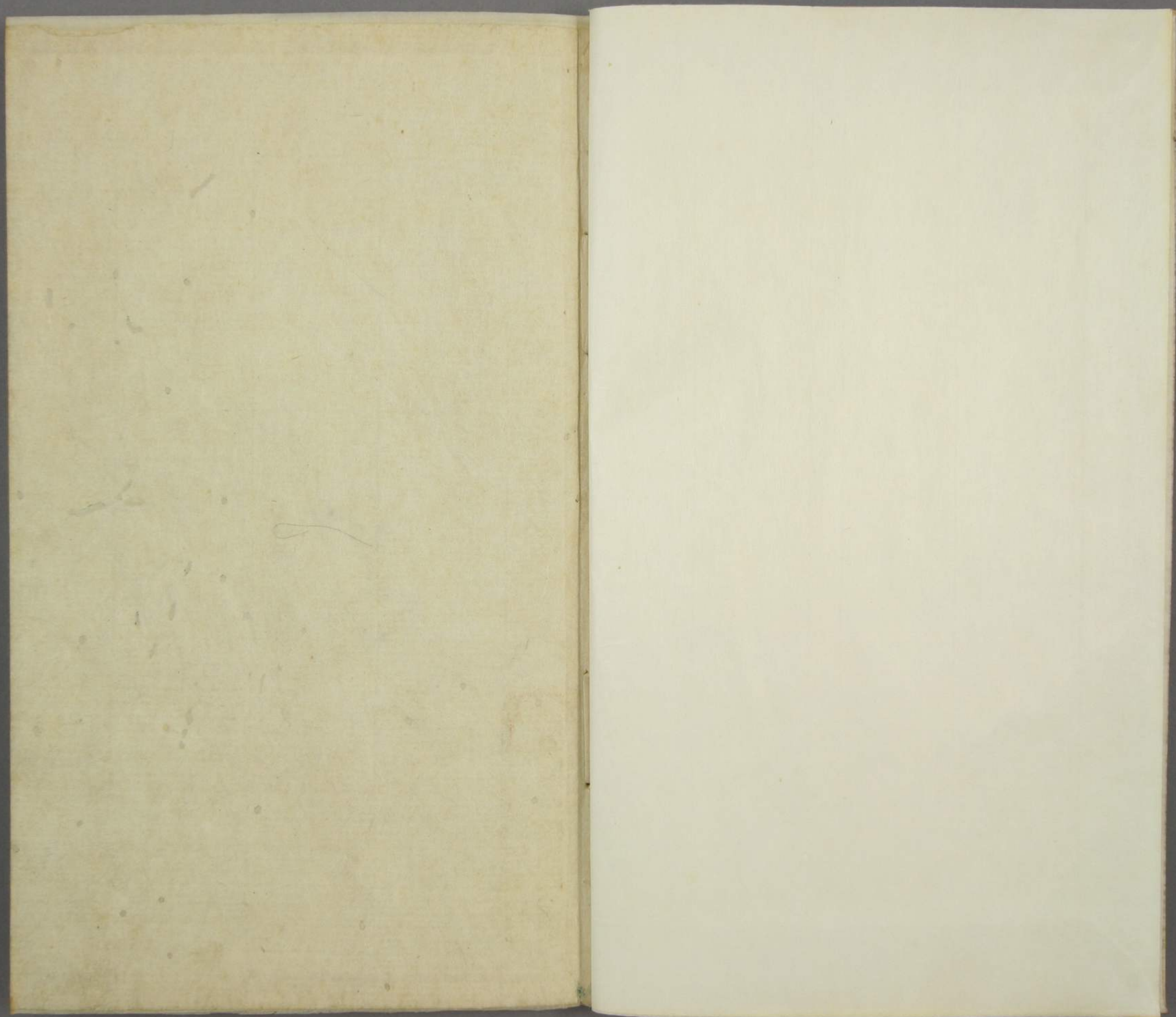




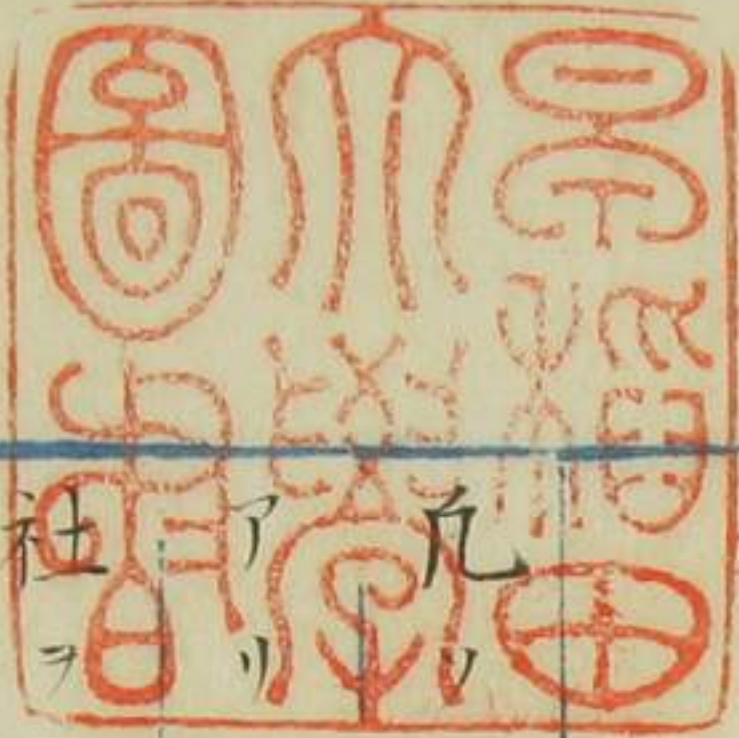
保生會社ニ
三類アル事







114
A 3615



保生會社ニ三類アル事

保生會社ニハ他ノ保險會社ノ如ク其類三
一般ノ股分會社ノ如ク數財主資本ヲ集メ
結フ者ヲプロプライエトリー會社トイ

フ財主ニテ其社ヲ有スルトイフ義ナリ此類ノ
社ニ於テハ集ムル所ノ資本ヲ抵當トシテ請合
ヲ為ス故掛金ヨリ得ル所ノ利益ハ些モ寄託人
ニ分配セス財主ノミ之ヲ領テ取ルナリ又右ノ
如ク資本ヲ集メ抵當トシ掛金ヨリ得ル所ノ利
益ハ財主ト寄託者トノ間ニ分割配取スルアリ

大正十一年四月
隈侯爵郵寄贈

之ヲミツキスド會社トイフ下ノミエーチユオール
會社ト上ノプロプティエートリー會社トヲ混
和シタル社トイフ義ナリ又初ヨリ資本ヲ募ラ
ス抵當ヲ備ヘス社ヲ結ビテ寄託ヲ引受ルヲミ
エーチユオール會社トイフ共ニ相維持スルトイフ
義ナリ此類ノ社ニ於テハ掛金ヨリ得ル所ノ利
益ハ社費ト準備トヲ除キテ餘ル所盡ク之ヲ寄
託者ニ分配スルナリ

三類會社各利害得失アル事並弊社ニ
於テミエーチユオール會社ノ制ニ倣フ所

以ノ本旨

右三類ノ會社ニハ何レモ利害得失アリ先[○]プロ
プライエートリー會社ハ若干ノ資本ヲ以テ抵
當トスルカ故ニ變事アルトキハ寄託者ニ於テ
損失ナキニ似タレトモ掛金ヨリ得ル所ノ利益
ハ常ニ會社ノ收ムル所トナルヲ以テ寄託者ハ
一生涯同額ノ掛金ヲ為サハルヘカラズ其上保
生金額モ亦初約ノ如クニシテ一錢モ増加スル
トナシ又ミツキスド會社ハ資本ヲ抵當トシ且掛
金ノ利益モ幾分カ寄託者ニ配分スルヲ以テ淺

ク之ヲ考フルトキハ寄託者ノ為ニ便利ナルカ
如シト雖モ會社失敗ノ事アルトキハ會社モ寄
託者モ共ニ損失ヲ蒙ルヘキナレハ平日寄託者
カ會社ノ株主ノ為ニ與ヘタル利益ハ誠ニ徒施
ニ屬スルナリ獨リミコトモオレハ會社ハ資本ヲ
以テ抵當トセス信義ヲ以テ相互ニ扶助保擔ス
ル組立ナレハ徒ニ會社ノ株主等ノ為ニ利益ヲ
收メラル、トナク年々僅ニ會社ノ費用ヲ拂ヒ
死者ノ遺族及満期寄託者ニ保生金ヲ與ヘ生者
準備ニ給スル者ノ外ハ盡ク之ヲ頒チ取ルヲ以

テ或ハ之ヲ^拂金ト差引レ或ハ之ヲ以テ保生金
高ニ加ヘ或ハ直ニ之ヲ受取ルヲ得ルカ故ニ寄
託者ニ於テ利息ヲ享クルト最大ナル者ニシテ最
モ亦保生ノ本意ニ合フ者ナリ是本社ニ於テ此
組立ニ據ル所以ナリ世人カ輒モスレハ此組立
ノ會社ニ疑ヲ容ル、所ハ失敗ノ日ニ方リテ負
債ノ任ヲ擔フ者ナキヤトイフニ在リ既ニ過日
代人ヲ差出セル時御査問モ較此事ニ涉リタル
ヤニ承ルニ付先會社維時^時ノ理ヨリ次第ニ之ヲ
辨スヘシ

會社維持ノ理

會社ノ維持スル精密ノ算法ハ既ニ保生術由来
概畧並算法ヲ記セル別冊ニ之ヲ詳ニセルヲ以
テ此ニハ其要理ヲ載スヘシ譬ハ茲ニ三十歳
ノ年康ニシテ死後ニ保生金一千圓ヲ渡サント
ヲ頼込ム寄託者一千人アレハ其保生金高ハ一
百萬圓ニシテ其初年ノ掛金即保生
實費ハ一人ニ付
十六圓二十一錢ナリ之ヲ一千人分合スレハ一
萬六千二百十圓トス此高ニ年四分ノ利子ヲ加
フレハ一萬六千八百五十八圓四十錢トナル扱

命數表ニ據レハ此年齡ノ人ノ一年ノ死數一千
人ニシテ八人ナレハ右掛金ノ中ヨリ其遺族ニ
一千圓宛合セテ八千圓ヲ拂ヒ殘金八千八百五
十八圓四十錢アリ其次年ニ存生ノ寄託者九百
九十二人ハ又前年ノ如ク各十六圓二十一錢ヲ
納ムルヲ以テ之ヲ合計スレハ金一萬六千零八
十圓三十二錢ナリ之ニ前年ノ殘金ヲ加フレハ
金二萬四千九百三十八圓七十二錢トナル此高
ニ年四分ノ利子ヲ生スレハ金二萬五千九百三
十六圓二十七錢ナリ此年死者ノ數モ亦一千人

ニ八人ノ割合ナルヲ以テ此金高ヨリ八千圓ヲ
死者ノ遺族ニ與フハ殘金一萬七千九百三十
六圓二十一錢アリ第三年ハ生存者九百八十四
人ナリハ此掛金總テ一萬五千九百五十圓零六
十四錢アリ前年ノ殘金ト合計ニ萬三千八百八
十六圓九十錢零九釐ナリ之ニ又年四分ノ利子
ヲ加フレハ三萬五千二百四十二圓三十八錢五
釐トナル扱此年ハ命數表ノ計算一千人ニ死者
九人ノ割合ナレハ金九千圓ヲ之カ為ニ拂ヒ殘
金二萬六千二百四十二圓三十八錢五釐アリ此

ノ如ク毎年掛金ヲ受ケテハ拂ヒ拂ヒテハ受ケ
終ニ三十五年日程ニシテ彼一百萬圓ノ保生金
ハ盡ク各寄託者ノ遺族ニ與フルヲ得會社ハ
義務ヲ完クスルヲ得ル積リ方ナリ扱此計算
ハ別冊算法ノ條ニ載スル如ク真ノ保生實費ノ
積リ方ニシテ毎年各死者ノ遺族ニ與フル所ハ
所謂ル保險費年々ノ殘金ハ所謂ル準備金ナリ
然ルニ此算法ハ本來受合ノ出來ル丈ノ積リ方
ナレハ會社ノ費用並ニ非常入用ノ出ツヘキ道
ナレ因テ通例何レノ會社ニテモ毎年一回ノ掛

金一ハ四割限年或ハ一次皆濟ハ掛金ニハ二割
ヨ一割迄ノ割掛ヲスルヲナリ即チ前日差出
セル掛金略表ニ年齢三十ノ者カ尋常保生ヲ託
スル毎年ノ掛金ハ一人分ニ十二圓七十錢トア
ルハ是前ニ述ル一人ニ付十六圓二十一錢ニ四
割ヲ乗ケタル者ナリサレハ此割掛ヲ為シタル
所ニテ算スルニ初年ノ掛金一千人分ニテ合計
ニ萬二千七百圓アリ前ノ掛金合高ニ較フレハ
初年ニハ六千四百九十圓ヲ餘シ二年目ニハ六
千四百三十二圓十三錢ヲ餘シ三年目ニハ六千

四百三十二圓十三錢ヲ餘シ三年目ニハ六千三
百八十圓二十六錢ヲ餘スナリ己ニ一千人ノ上
ニテスラ餘金ハ此ノ如ク多シ故ニ之ヲ以テ一
切ノ社費ニ給シテ猶餘アリ況ンヤ寄託者ノ數
一萬ニ登ルニ於テヲヤ是ニテ會社ヲ維持シ得
ル理ハ知ルヘシ扱此道理ナレハ資本ヲ集メ株
主ニ利益ヲ分ツハ誠ニ無益ノ事タル益明ナリ
殊ニ方今銀行杯ニテスラ往々年一割六七分ノ
利益金ヲ配當スル者ナリ米高會社ニ至リテハ
株主等非常ノ利益アルヲ以テ吾輩會社ニテモ

株ヲ募ル上ハ自ラ之ニ準シテ利益ヲ配當セザ
ルニ得テ加之ナラズ保生會社ナル者ハ義務ヲ
以テ始リ義務ヲ以テ終ル者ナリ故ニ會社ニテ
義務ヲ負フ間ハ寄託人モ亦會社ニ對シテ責ア
リ寄託人己ニ義務ヲ負ハサレハ會社モ隨テ責
ナシ然ルニ今此義務ヲ保擔スルコトヲ確證セン
カ為ニ譬ハ十萬圓ノ資本ヲ備フルトセンニ前
例ノ如ク一千人ノ寄託者アルモ會社ノ義務ハ
初年己ニ一百万圓ニ登レリ是十ヲ以テ百ヲ保
擔スルナリ誰カ其不當ヲ笑ハサランヤサレハ

米國紐育府杯ニテハミューチュアル會社ノ組立
ナル者最多シ弊社カ倣模スル所ノ紐育共持社
ノ如キ則別冊由來概略ニ載スル如ク一百零八
弗五十占土ノ掛金ヲ以テ創メタリトイフモ此
組立ナルヲ以テナリ故ニ此組立ニ從ヘハ創業
入費ト數月ノ豫備アレハ足レル者ト不然ルヲ
猶一萬圓ノ恩借十年ノ特許ヲ願ヒ奉ルモ
ノハ姑ク衆人ノ信ヲ買ハシカ為ノニ衆人已ニ
會社ノ憑ムヘキヲ知レハ豫備金ヲ要セス特許
ヲ返納スルモ妨ナシ

利益金ノ出處ヲ明ニス

右如保生ノ計算ハ積リ限リタル者ナルニ
寄託者ニハ配スル利益金ハ何レノ路ヨリ出ル
トハ元來保生實費ハ別冊ニ載スル如ク毎
年四分ノ利子ヲ割引シテ積ル者ナレハ掛
金ヲ運用シテ四分ノ利子サヘ得レハ前ニ述ル
如ク死者ノ遺族ニ約束ノ金高ヲ與ヘ猶每年生
存者ノ為ニ準備金ヲモ貯置クコトヲ得ル者ナリ
然ルニ譬ハ此掛金ヲ運用シテ年四分ノ代リニ
八分ノ利子ヲ得ルトスレハ初年ノ殘金ハ九千

五百零六圓八十錢アリ前例ノ殘額ニ較フレハ
多キ一六百四十八圓四十錢ナリ此殘額ト二年
目ノ掛金トニ又年八分ノ利子ヲ得ルト積リ其
年又死者ノ遺族ニ與フル分ヲ差引ケハ殘金ハ
一萬九千六百三十三圓零九錢アリ前例ニ較フ
レハ多キ一一千六百九十六圓八十二錢一厘ナ
リ又第三年目ニ此殘額ト其年ノ掛金トニ八分
ノ利子ヲ得ルト積リ九人ノ遺族ニ與フル九千
圓ヲ引去レハ殘金ニ萬八千七百二十圓零四十
錢アリ前例ノ殘額ニ比スレハ多キ一二千四百

七十八圓零四錢五釐ナリ此ノ如ク年八分ノ利
子ニテ掛金ヲ運用スルハ三年間ニシテ合計四
千八百十九圓二十六錢六釐ノ算外ノ利益ヲ生
ス若シ年一割ニ運用スレハ利益ハ猶大ナリ扱
前ニ述ノル如ク保生實費ハ元來年四分ノ割合
ニテ積リタル者ナレハ此利益ハ誠ニ算外ノ物
ナレハ之ヲ各寄託者ニ割渡スモ更ニ準備金ニ
差響クニモ非ス固ヨリ會社ニテ使用スヘキ者
ニ非レハ之ヲ寄託者ニ配分スルナリ是掛金ヨ
リ利益ノ出ル道ノ一ツナリ次ニ利益ノ出ル路

ハ彼社費並ニ非常入用ノ為ニ割掛ケタル四割
ノ分ナリ扱此割賦ノ分ハ前ニ述ル如ク初年ニ
ハ六千四百九十圓アリ是モ其日ヨリ直ニ使用
スル者ニ非レハ先年八分ノ利子ヲ生スル者ト
スレハ七千零々九圓二十錢ナリ假ニ會社ノ諸
費用ヲ五千圓ト積ルモ二千圓餘ヲ遺セリ第二
年目ニモ其元利共ニ六千九百四十六圓七十錢
アリ同ク社費ヲ減キテ殆シト二千圓ヲ除スナ
リ第三年目ニモ元利共ニ六千八百九十三圓二
十錢トナレハ社費ヲ減キテ殆シト一千圓ヲ餘

スナリ此三年分ヲ合計スレハ五千八百四十九
圓十錢ナリ二年目ヨリ殘額ニ利子ヲ加ス此金モ
亦會社ニテ使用スベキ者ニ非レハ之ヲ寄託人
ニ分ツナリ此外納時限ニ約ノ如ク掛金セサル
者ハ前掛金ヲ收没スルニ由リテ是亦利益ノ一
部ニ属セリ又保正證書ノ買戻シヲ乞フ者アレ
ハ相當ノ價ニテ之ヲ買フヲ以テ向後其人ノ為
ニ負フ所ノ義務ヲ免ルカ故ニ是亦多少會社
ノ益トナルナリサレトモ此二事ハ固ヨリ會社
モ寄託人モ好マサル所ニテ且數萬人ヲ引受ル

上ニ非レハ先通例ハ希ナル丁故未タ利益ノ一
部ト為スニ足ラス凡ソ利益ノ出ル所右ノ如ク
ナレト其高ハ則死者ノ數少ク貸附金ノ利子豫
算ノ割合ヨリ多ク會社ノ費用少ケレハ隨ツテ
多ク之ニ反スルトキハ隨ツテ少レ故ニ豫メ幾
何ト定ムヘカラス

會社責任ノ事

右ニ載スル如キ道理ナレハ會社ヲ保續レ義務
ヲ保擔シ寄託者ニ利益ヲ與フルハ萬々間違ナ
キ組立ニナシタル者ナリ然レトモ豫メ期スヘ

カニサルノ大變假令ハ一國ノ戰亂ニ遭フテ會社ノ財産ヲ盡ク失フ如キ事アルトキハ是人力如何トモスハカラサルヲニテ會社モ寄託人モ共潰レナリサレトモ是ハ七里結界我邦ニハ無キトシテ扱會社ニテ非常ノ變ト唱フル者ハ本年ノ如ク猛劇ノ惡疫流行シテ數萬ノ生靈ヲ殲シ去ルノ類ヲイフナリ此ハ是豫メ期スハカラサル變事ニシテ會社モ生物ヲ受合フテ故多少ノ損失ハ必ス被フルヘシサルカラニ彼割掛金ヲ為シ置キテ社費ヲ給シタル殘金ハ之ニ

充ル積リナリサレトモ夫ニテモ猶足ラサルトキハ他ノ貸金ヨリ出タル利子ヲ以テ之ニ充ツヘシ尤命數表ナル者ハ元來多年ノ歷驗ニ出ラタルモノニテ其間ニハ流行病ノ為ニ多人ノ死シタル年モアルヘシ之ヲ都合ヨク那移推測シテ作りタルヲ故死者ノ數ハ必ス毎年其表面通りニハユカストモ十年二十年ニハ必ス合フ者ナリサレバ其實ヲイフトキハ死者多キ年ニハ生存者ノ準備金中ヨリ幾何カ足シ前ヲ為ストモ差支ナキ者ナリサレトモ夫ニテハ會社ノ本

旨ニ叶ハサル故流行病ノ為ニ死シタル人ハ其
保生金ノ百分ノ一ヨリ少カラズ百分ノ三ヨリ
多カラサル金高ラ中受翌年ニ至リ損益ヲ計リ
テ之ヲ申受キリニスルトモ或ハ之ヲ割戻スト
モスル規則ヲ立タルナリ是ハ他ノ會社ニハナ
キナレトモ我邦當今衛生ノ法醫治ノ術未
ク行届カサル所アルヲ以テ斯ル節ニハ自ラ死
者モ多カラントラ慮ルカ故ニ設ケタルナリ扱
此類ノ變ニ處スル最後ノ策ハ翌年ヨリ幾分カ
掛金ヲ増スノ一事ナリ此事ハ大ニ社ノ外聞ニ

モ關スルナリ故成丈ハ為サ、ル様ニ右種々ノ用
意モスルナリ蓋シニユリテオール會社ナル者
ハ佛法ノ所謂ル無名會社ニ似タル者ニテ寄託
人ハ則其株主ナリ故ニ會社ニ損アレハ共ニ損
レ益アレハ之ヲ配取スサレハ或ハ一年分ノ利
益金ヲ損レ或ハ翌年ヨリ掛金ヲ増サレ、モ周
ヨリ自然ノ理ニシテ少モ苦情ヲ鳴スヘキニ非
ス加之ナラズプログライエトリミツキス
下二類ノ會社トイヘトモ大損後ハ掛金割増
ノ策ハ間用フルモノナリ且其利益ヲ得ル能ハ

ス割増ヲ出ストイフモ畢竟已等カ從來ノ掛金
ヲ失ハスレテ後日ノ保生金ヲ得ル為ナレハ無
名會社ノ如ク損失ヲ被フリテ止ム者ニ非ス猶
且弊社員ノ事務ヲ執ル節ニハ身元保生金ヲモ
棄擲シラ之カ償ニ充ツルノ規則ナレハ最早此
上ニ負フヘキ義務ハアルマシキナリ但夫ノ寄
託者ナキ時ハ如何セラ保續スヘキト慮ル如キ
ハ誠ニ犯人ノ憂ニシテ猶夫ノ種時ノ農夫ニ對
シテ禾穀實ラサルトキハ徒勞ニ屬スヘシト諭
スニ齊シキ者歟

以上匆卒ニ草シ了リ候間遣辭ノ失體ハ宜ク海
容ラ乞フ

